



祝祭日には国旗を掲げましょう。

大阪天満宮社報 第63号

# てんまてんじん



遷宮で結ぶ人の輪 心の輪  
第六十二回神宮式年遷宮



## 年首御慶

癸巳 元旦

表紙解説

東堺天神像 ..... 2 頁

第10回てんま天神梅まつり ..... 4 頁

天満地区H.O.P.Eゾーン ..... 6 頁

川崎東照宮にあつた燈籠たち ..... 10 頁

神社スカウト全国大会 ..... 12 頁

大阪天満ロータリークラブ ..... 13 頁

浪速中学校で龍笛指導 ..... 14 頁



天神様が梅花を愛でられたことは、「東風吹かば・・・」の御歌や、「飛梅伝説」などによつて、よく知られています。

そこで当宮では平成十六年より、天神様の愛梅の心を偲んでいたところ、「てんま天神梅まつり」を開催してきましたが、本年で十回目の節目を迎えることとなりました。

本年の「てんま天神梅まつり」は、二月八日～三月十日まで開催いたします。百畳敷きの参集殿で催される大盆梅では、例年、天神様が愛でられた梅を展示しておりましたが、今年は特別に、当宮の創祀伝承「七本松伝承」（大将軍社の前に一夜にして七本の松が生え、夜な夜な金色に光り輝いたことから、当宮が創建されたという伝承）にちなんで「松の盆栽」も併せて展示させていただくこととなりました。

境内におきましても、期間毎に様々な催しが行われますのでご紹介させていただきます。それぞれ、別途参加料など必要な催しもございますが、社務所迄お問い合わせ下さい。



夜間イベント 神楽



参集殿の見事な盆梅



大賑わいの梅酒大会



勧進御能

## ■ 夜間イベント

### 「振る舞い梅餅」

また期間中には、左記の夜間イベントも行われます。

下記は過去十周年のスナップの一部です。さて、今年はどうな光景が繰り広げられるでしょうか。

◆ 二月二十四日(日)  
「縫い物教室・カフェ」  
梅の模様をあしらつた小物作り体験ができます。小物を作ったあとは、抹茶とお菓子でのんびりとおくつろぎいただけます。

◆ 二月二十五日(月)～三月三日(日)  
「骨董市」  
境内いっぱいに店が並び、懐かしい品物に触れ、手触りを楽しむことが出来ます。時間を忘れ眺めていると掘り出し物に出会えるかも知れません。

◆ 二月二十四日(日)  
「縫い物教室・カフェ」  
梅の模様をあしらつた小物作り体験ができます。小物を作ったあとは、抹茶とお菓子でのんびりとおくつろぎいただけます。

◆ 二月十五日(金)十七時半～西川梅十三さんの「日本舞踊」

◆ 二月十五日(金)十八時半～旭堂南陵さんの「講談」

◆ 二月十六日十八時～当宮神楽教室受講生による「御神樂」

◆ 二月十七日(日)十八時～上野朝義さん・吉村ゆきそのさんの「勧進御能」

そこで当宮では平成十六年より、天神様の愛梅の心を偲んでいたところ、「てんま天神梅まつり」を開催してきましたが、本年で十回目の節目を迎えることとなりました。

本年の「てんま天神梅まつり」は、二月八日～三月十日まで開催いたします。百畳敷きの参集殿で催される大盆梅では、例年、天神様が愛でられた梅を展示しておりましたが、今年は特別に、当宮の創祀伝承「七本

松伝承」（大将軍社の前に一夜にして七本の松が生え、夜な夜な金色に光り輝いたことから、当宮が創建されたという伝承）にちなんで「松の盆栽」も併せて展示させていただくこととなりました。

境内におきましても、期間毎に様々な催しが行われますのでご紹介させていただきます。それぞれ、別途参加料など必要な催しもございますが、社務所迄お問い合わせ下さい。

◆ 二月八日(金)～十四日(木)

「アートクラフト市・陶器市」

関西で活躍するアーティストやクリエイターによる作品市

◆ 二月十六日(土)～二十四日(日)

「水墨画奉納式」

本殿前で、大正琴の音色に合わせ、梅の絵を即興にて水墨画で描き上げる様は

圧巻です。翌、十七日(日)には水墨画の体験もできます。

◆ 二月二十三日(土)二十四日(日)

「アーモレスリング選手権」

学問だけでなく、武芸の神様でもあります、天神さんへの奉納選手権で腕力を競います。

◆ 二月九日(土)

「全国ゆるキャラパレード」

全国各地のゆるキャラが天神橋筋商店街をパレードし、天満宮に集合します。

◆ 二月二十四日(日)

「天満うまいもん屋台」

午前十時～午後四時まで、天満地

域の名店の屋台が集合します。

◆ 二月二十四日(日)

「天満うまいもん屋台」

午前十時～午後四時まで、天満地

域の名店の屋台が集合します。



本殿正面



勧進御能

◆ 三月四日(月)～三月十日(日)

「全国地域観光物産展」

大阪にいながら、全国各地の名産・銘品を堪能することができます。

◆ 三月十日(日)

「振る舞い梅餅」

梅まつりの最終日、大阪天満宮青年親睦会による餅つき、参拝者への餅の振る舞いがございます。温かい柏汁やかつぽ酒の販売もいたします。

◆ 三月四日(月)～三月十日(日)

「全国地域観光物産展」

大阪にいながら、全国各地の名産・銘品を堪能することができます。

◆ 三月十日(日)

「振る舞い梅餅」

梅まつりの最終日、大阪天満宮青年親睦会による餅つき、参拝者への餅の振る舞いがございます。温かい柏

汁やかつぽ酒の販売もいたします。

◆ 三月四日(月)～三月十日(日)

「全国地域観光物産展」

大阪にいながら、全国各地の名産・銘品を堪能することができます。

◆ 三月十日(日)

「振る舞い梅餅」

梅まつりの最終日、大阪天満宮青年親睦会による餅つき、参拝者への餅の振る舞いがございます。温かい柏

汁やかつぽ酒の販売もいたします。

◆ 三月四日(月)～三月十日(日)

「全国地域観光物産展」

大阪にいながら、全国各地の名産・銘品を堪能することができます。

◆ 三月十日(日)

「振る舞い梅餅」

梅まつりの最終日、大阪天満宮青年親睦会による餅つき、参拝者への餅の振る舞いがございます。温かい柏

汁やかつぽ酒の販売もいたします。

◆ 三月四日(月)～三月十日(日)

「全国地域観光物産展」

大阪にいながら、全国各地の名産・銘品を堪能することができます。

◆ 三月十日(日)

「振る舞い梅餅」

梅まつりの最終日、大阪天満宮青年親睦会による餅つき、参拝者への餅の振る舞いがございます。温かい柏

汁やかつぽ酒の販売もいたします。

◆ 三月四日(月)～三月十日(日)

「全国地域観光物産展」

大阪にいながら、全国各地の名産・銘品を堪能することができます。

◆ 三月十日(日)

「振る舞い梅餅」

梅まつりの最終日、大阪天満宮青年親睦会による餅つき、参拝者への餅の振る舞いがございます。温かい柏

汁やかつぽ酒の販売もいたします。

◆ 三月四日(月)～三月十日(日)

「全国地域観光物産展」

大阪にいながら、全国各地の名産・銘品を堪能することができます。

◆ 三月十日(日)

「振る舞い梅餅」

梅まつりの最終日、大阪天満宮青年親睦会による餅つき、参拝者への餅の振る舞いがございます。温かい柏

汁やかつぽ酒の販売もいたします。

◆ 三月四日(月)～三月十日(日)

「全国地域観光物産展」

大阪にいながら、全国各地の名産・銘品を堪能することができます。

◆ 三月十日(日)

「振る舞い梅餅」

梅まつりの最終日、大阪天満宮青年親睦会による餅つき、参拝者への餅の振る舞いがございます。温かい柏

汁やかつぽ酒の販売もいたします。

◆ 三月四日(月)～三月十日(日)

「全国地域観光物産展」

大阪にいながら、全国各地の名産・銘品を堪能することができます。

◆ 三月十日(日)

「振る舞い梅餅」

梅まつりの最終日、大阪天満宮青年親睦会による餅つき、参拝者への餅の振る舞いがございます。温かい柏

汁やかつぽ酒の販売もいたします。

◆ 三月四日(月)～三月十日(日)

「全国地域観光物産展」

大阪にいながら、全国各地の名産・銘品を堪能することができます。

◆ 三月十日(日)

「振る舞い梅餅」

梅まつりの最終日、大阪天満宮青年親睦会による餅つき、参拝者への餅の振る舞いがございます。温かい柏

汁やかつぽ酒の販売もいたします。

◆ 三月四日(月)～三月十日(日)

「全国地域観光物産展」

大阪にいながら、全国各地の名産・銘品を堪能することができます。

◆ 三月十日(日)

「振る舞い梅餅」

梅まつりの最終日、大阪天満宮青年親睦会による餅つき、参拝者への餅の振る舞いがございます。温かい柏

汁やかつぽ酒の販売もいたします。

◆ 三月四日(月)～三月十日(日)

「全国地域観光物産展」

大阪にいながら、全国各地の名産・銘品を堪能することができます。

◆ 三月十日(日)

「振る舞い梅餅」

梅まつりの最終日、大阪天満宮青年親睦会による餅つき、参拝者への餅の振る舞いがございます。温かい柏

汁やかつぽ酒の販売もいたします。

◆ 三月四日(月)～三月十日(日)

「全国地域観光物産展」

大阪にいながら、全国各地の名産・銘品を堪能することができます。

◆ 三月十日(日)

「振る舞い梅餅」

梅まつりの最終日、大阪天満宮青年親睦会による餅つき、参拝者への餅の振る舞いがございます。温かい柏

汁やかつぽ酒の販売もいたします。

◆ 三月四日(月)～三月十日(日)

「全国地域観光物産展」

大阪にいながら、全国各地の名産・銘品を堪能することができます。

◆ 三月十日(日)

「振る舞い梅餅」

梅まつりの最終日、大阪天満宮青年親睦会による餅つき、参拝者への餅の振る舞いがございます。温かい柏

汁やかつぽ酒の販売もいたします。



# 迎春準備

全国の神社と同様に、当宮の年末も、職員総出の迎春準備に追われます。その一部をご紹介したいと思います。

## ▲賽銭箱の設置▼

年末の境内に入りますとまず目に飛び込んでくるのは、本殿正面での作業風景でしょう。正月三が日で五十五万人を越える参拝者の皆様をお迎えするために、「賽銭箱」を特別に設けております。この設置作業を機に、境内は新年を迎るために慌ただしくなつてまいります。



## ▲懸蓬菜の調整▼

正月は年の始めに当たり、家々に歳神様のおいでを願う為に、神さまをお迎えする「しるし」として蓬莱の装飾のために、「蓬莱」と呼ばれる飾り物が用いられました。

平安時代には、貴族の祝儀や酒席を会社や各家庭の神棚、床の間、床柱などに飾り、その年の豊かなことを祈る行事であります。

とは、蓬莱山をかたどった台、松竹梅・鶴亀・尉姥などを配した飾り物のことをいい、蓬莱山とは、中国の伝説にみえる、東海中の仙人が住む不老不死の靈地をいいます。竹取物語にも「東の海に蓬莱山といふ山あるなり」と記されているように、我が国でも、よく知られた伝説だったようです。

「蓬莱」は、室町時代になると、正月の床飾りや、年賀客の取扱の台として用いられるようになり、三宝の上に白紙・歯朵・譲葉・昆布を敷き、米・榧・搾栗・穂俵・串柿・橙・柚子・蜜柑・野老・海老・梅干しなどの縁起物を積みました。

その後、用途によつて、懸蓬菜・組蓬菜・包蓬菜・絵蓬菜・蓬莱盆などの様式が生まれました。



御利用の後は、一月十五日のどん神事の際にお飾りをお持ちいただきますと、御焚き上げもさせていただいております。

## ▲大絵馬の模写▼

例年、お正月期間に本殿正面に飾つています大絵馬は、実は絵心のある神職が描いております。といいますと驚かれるかも知れませんが、正確には、毎年、長谷川貞信画伯にお願いしております「干支絵馬」の絵をもとに神職が模写しているのです。



このほかにも、お守りの調製や注連縄奉製など、数多くの迎春準備を進めて、皆様のご参拝をお待ちしているのです。

本年も、皆様にとりまして、いい一年となりますように、職員一同、授与所にて授与しています。

## 今年の干支絵馬

### 癸巳(みずのと・巳)

ることを意味します。

一方の「巳」は、今まで地下に冬眠していた蛇が、春になって地表に這い出す形を表した象形文字です。

私たちの生活に読み替えれば、従来の因習的生活に一区切りをつけて、新しい生活を展開させるという意味になります。

ですから、癸巳の今年は、家族が、

あるいは職場や地域のコミュニティ

が、さらには国家が一致団結して、新たな社会・生活を切り開くべき年だということです。

昨今の政治の混迷を鑑みるとき、今年こそ我が国民が一致団結して、新たな希望に満ちた社会へ向けて歩み出す年となることを期待したいものです。(安岡正篤大人の著書より)

さて、今年は「癸巳(みずのと・

み)」です。癸は「揆(はかる)」

に通じる字義を持ちますので、心を

一にして結束することを「一揆」と

いいます。癸は「揆(はかる)」

意味するわけではなく、一致団結す

たり。



## 〔語釈〕宿醉||二日酔いのこと。七賢

II

中国晉の七人の隠者。琅玕||竹の幹。戛玉||玉が打ち合う音。幹の触

れあうを言う。

(詩意) 風香る深緑の竹林に眠る、昨

日からの酒の酔いはまるで晉時代の

七賢のようだ。ベンチに腰を掛け詩

を作つていると竹と竹が触れて音を

発している。

五月席題 神苑茶亭(分韻)

苔菴

揚田

崇徳

三原市

松籟度神苑

茶亭氣轉高

悠然吞一椀

雅客不爭豪

(訓説) 松籟度神苑を度り、茶亭氣うたた高し。悠然として一椀を呑む、雅客豪を争わず。

(語釈) 松籟度神苑を度り、茶亭氣うたた高し。悠然として一椀を呑む、雅客豪を争わず。

(詩意) 松風が神苑を渡つてきて、茶

室の雰囲気も貴くなる。ゆつたりと

茶をふくむ、客は権勢など競うこと

はない。

(詩意) 松風が神苑を渡つてきて、茶

室の雰囲気も貴くなる。ゆつたりと

茶をふくむ、客は権勢など競うこと

はない。

(詩意) 秋風が庭の青桐に吹いてきて、

病の身体を

蘇らせた。すのこの上に横たわつて

いる桐の葉がはらりと落ち、集く

虫の音は私の耳を喜ばせ一瞬我をわ

されていた。

## 〔語釈〕宿醉||二日酔いのこと。七賢

II

中国晉の七人の隠者。琅玕||竹の幹。戛玉||玉が打ち合う音。幹の触

れあうを言う。

(詩意) 風香る深緑の竹林に眠る、昨

日からの酒の酔いはまるで晉時代の

七賢のようだ。ベンチに腰を掛け詩

を作つていると竹と竹が触れて音を

発している。

五月席題 夜半得涼

鐵鳳 安東 勝幸 和泉市

西風早巳入庭梧 雨洗殘炎病骨蘇

枕簟涼生飄一葉 蟲聲悅耳我忘吾

(訓説) 西風早や已に庭梧に入り雨は

残炎を洗いて病骨蘇る。枕簟涼生じ

一葉ひるがえり、虫声耳を悦ばし我

は吾を忘る。

(詩意) 西風が庭の青桐に吹いてきて、

病の身体を

蘇らせた。すのこの上に横たわつて

いる桐の葉がはらりと落ち、集く

虫の音は私の耳を喜ばせ一瞬我をわ

されていた。

(詩意) 秋風が庭の青桐に吹いてきて、

病の身体を

蘇らせた。すのこの上に横たわつて

いる桐の葉がはらりと落ち、集く

虫の音は私の耳を喜ばせ一瞬我をわ

されていた。

(詩意) 秋風が庭の青桐に吹いてきて、</p



第十一回 神社スカウト全国大会

昨年八月七日から十日まで、第十一回神社スカウト全国大会が伊勢の地にて開催されました。

この力士会は昭和三十五年より五年ごとに開催され、今回は特に全国神社スカウト協議会結成五十周年、および第六十一回式年遷宮奉祝行事として、大会会場は神宮のすぐ近くにある三重県営総合競技場を中心とした場所で行われ、全国から約千五百名のスカウトが集いました。

三宮からばかりかバスカウト隊とガールスカウト隊が参加し、私どもが所屬する大阪府神社スカウト協議会は近畿地区の一員として野営管理部を担当し、私が部長を務めさせていたしました。役割としては大会前より現地に入り、野営地の振り分けや設営を行い、期間中は安全面では会場周辺の警備巡回や、衛生面ではゴミの処理や炊事場やトイレの清掃など野営に関する奉仕を致しました。



雅樂奉納

参加者はまず本殿前にて記念写真を撮影した後、揃つて本殿に昇殿参拝し、奉告祭を斎行しました。

卷之三

この後、会場を天満宮会館に移して記念例会が開催されました。開会の点鐘後に、国歌の斉唱、ゲストの紹介と続き、物故者への黙祷を捧げるなどいたしました。こうした次第で式を進め、最後には同クラブの会員でもある寺井宮司が、「天満」と題した卓話を行いました。この後、閉会の点鐘をして、例会は無事終了

記念例会

卷之三

十一月一日に、大阪天満橋口一タリーラークラブの創立四十五周年奉告祭並びに祝賀式典が、当宮にて開催されました。

ブ（露口四郎特別代表）がスponサークラブとなつて設立したクラブです。奉告祭ならびに式典は、川原和彦第四五代会長以下会員と招待者あわせて九十名余りの参加を得て、盛大に挙行されました。

外国からのお客様に雅楽を聴いていたとき、日本の伝統音楽を知つて、ただく機会となつたことを非常に嬉しく思います。

奉納曲は平調の「越殿樂」と「陪臚」でした。

白一対の梅が奉納されることとなり  
目録の贈呈が行われました。

大会初日は開会式では各団旗行進、その後三  
ードを掲げての入場行進、その後三

眞興神道説言会による大會奉告祭が  
厳肅な雰囲気の中で行われ、続いて  
ご来賓の神社本庁北白川統理や神宮  
鷹司大宮司、神社本庁田中総長がご  
挨拶されスカウトを激励しました。

拝行進や周辺の史跡探訪 五十鈴川  
でのみそぎ行事など神社スカウトならではの経験をし、また選択プログ  
ラムではカヌーの体験やチーフリングや勾玉作りなどの様々な工作を楽  
しみました。



写真：神宮司庁



三  
歷

けるなど今までにない規模での施設となつておりますので、皆様も神宮にお参りの節は外宮にも参拝いただきまして、是非ともお立寄り下さい。

式年遷宮を前にした現在でも祝祭日のみならず平日でも大変多くの参拝者がお参りされていますが、全てが新しくされた後には全国から訪れる「お伊勢参り」の方々でその賑わいは頂点に達することでしょう。

前回の式年遷宮では、「神宮美術館」が新たに建設されましたが、今回は外宮に「せんぐう館」が設けられ既に多くの参拝者が見学されております。神宮へ、やもすると内宮のみの参拝となることが多いように漏れ聞きますが、せんぐう館は、式年遷宮の歴史や御神宝に関わる展示

「遷御（せんぎよ）」。まだお遷りになつた大神様のおもてなしともいえる「大御饌（おおみけ）」や「御神樂（みかぐら）」など神事や行事が次々と斎行されます。

# 七不思議めぐり

かれながら、不思議の謎を楽しんだ  
参加者の一人、野瀬直則さんは「知  
つているつもりだった境内なのに、  
こんなに新しい発見があるとは・・・  
・と驚いていらっしゃいました。

去る一月二五日、ナカノシマ大  
学の一月講座「大阪の神さん仏さ  
んを歩く」が行われました。ナカノ  
シマ大学とは、フリーペーパーの『月  
間島民』が主催する市民向け講座で、  
今回の企画は、八月に出版

された対談集『大阪の神さ  
ん仏さん』(糸徹宗・高島  
幸次の共著)関連イベント  
として開催されたものです。  
当曰は午後一時から梅香  
学院に於いて、当宮文化研  
究所の高島先生が「大阪天  
満宮の歴史と七不思議」を  
講義され、その後にボラン  
ティアガイド「天満天神御  
伽衆」が境内の「七不思議」ツ  
アーチを案内しました。

予想を超える六〇余名の参  
加があつたため、三グル  
ープに分かれて七不思議を巡  
り歩きました。御伽衆の御  
崎雅美・大閑悦子・笠井敏  
光・川崎あかね・木村比佐  
子さんらの楽しい解説に導



## 大阪天満宮献詠 風月社

平成二十四年下半期秀歌

岩陰より出で来しつがひのをし鳥の 鈴虫の音色さやけき秋思祭  
互ひに寄り合ふもの言ひたげに 献詠うれし八十路なかばに

海青き磯辺に守る鯛数多 魚鳥はやさしき声でつまを呼ぶ

釣れて夕べの夕食樂し 晴れの日だまり風つよき朝

絵日傘にゆく堀川通り 京都 塩小路 光孚

京舞妓だらりの帯のみやびふり 紫が好きだと言いし母の色

選者 浅井 與四郎 あやめの花の咲くを知らせる

幹事 佐野 秀子 神戸 鈴木 敬子

磯千鳥波にたはむれ飛沫あび 穏やかな水面を進む水鳥の

朝日に向ひ飛び立ちてゆく あとに拡がる波紋うるはし

幹事 松村 晓二 大火鉢に寒あやめ咲かす友の家

秋思の祭りいよよたけなは 道ゆく人の心なごます

鈴虫のいと麗しき声ひびく 大阪 中瀬 央子

日傘久しくいとしみを持ちぬ 朝日に向ひ飛び立ちてゆく

幹事 岩城 富子 京舞妓だらりの帯のみやびふり

高き香の岩のり食めば荒磯に 紫が好きだと言いし母の色

摘み取る人の苦勞思ほゆ あやめの花の咲くを知らせる

堺 永田 民子 京舞妓だらりの帯のみやびふり

水鳥の羽風に漂ふ歳月の 穏やかな水面を進む水鳥の

重ねし縁を忘れたまるな あやめあやなし花陰つくる

西宮 牛田 真理子 東大阪 西岡 克啓

磯の蟹岩打つ波の引くを待つ 足元の危ふき磯に下り立てば

数多の窪み海の香充つる 海の生きもの鮮やかに栄ゆ

大阪 大北 滋保 行く女なべて美しく見ゆ

紫に映ゆる池の面暮れなづみ

あやめあやなし花陰つくる

大阪 松村 龍太郎 降る雨に見る人もなくあやめ咲く

西宮 牛田 真理子 濡れてひとときは色あざやかに

磯の蟹岩打つ波の引くを待つ

数多の窪み海の香充つる

大阪 大北 滋保 行く女なべて美しく見ゆ

紫に映ゆる池の面暮れなづみ

あやめあやなし花陰つくる

大阪 松村 龍太郎 降る雨に見る人もなくあやめ咲く

西宮 牛田 真理子 濡れてひとときは色あざやかに

磯の蟹岩打つ波の引くを待つ

数多の窪み海の香充つる

大阪 大北 滋保 行く女なべて美しく見ゆ

## 浪速中学校で龍笛指導



### 浪速中学校で龍笛指導

一二月に、学校法人浪速  
学院浪速中学校の依頼をう  
けて、同校に出向しました。

音楽の授業の一環として雅楽を教え  
る特別教員として、中学一年生の生  
徒を対象に、龍笛の指導を行うため  
です。ここ数年は毎年行われており、  
今年で四度目になります。

学習指導要領に日本伝統音楽の学  
習が含まれていますが、たいていの  
学校では音楽教師が解説をしてビデ  
オや音源を鑑賞するのみです。しか  
し、同校は神社神道を建学の精神に  
掲げていることから、日本伝統音楽  
として「雅楽」を取り上げ、しかも  
楽器演奏までも取り入れた授業内容  
を進めています。他にも雅楽クラブ  
を設置するなど、雅楽の普及に大変  
尽力なさっています。

今年は、一年生の三学級で四回の  
雅楽授業を行いました。その授業を  
ご紹介いたします。

● 第一回 雅楽とは?

まず、ワークプリントを使って、  
雅楽とはどんな音楽でいつごろから

なか音にできない生徒もいましたが、  
わずか数分の練習でざいぶんと音が  
出るようになっていたのは驚きです。

● 第二回 龍笛入門

いよいよ各生徒に龍笛が一管ずつ  
配布され、龍笛の実技指導にはいつ  
ていきます。

まずは、各生徒に龍笛の部分名称  
や指穴の名称を理解し内部の構造と  
音の発生する原理などを学習しても  
らいました。

いよいよ音を出す練習になると、  
生徒たちは待ちかねた様に吹き出し  
ました。龍笛は難しいのですぐには  
音を出せないだろうと予想していた  
のですが、なんと八割以上の生徒が  
音を出させていたのです。中にはなか

なか音にできない生徒もいましたが、  
折角の稽古ですから何かの曲を課  
題としたいと思い、「君が代」を練  
習することにしました。古典曲をす

はじましたのかという歴史的な解説  
をした後、演奏形態や楽器編成につ  
いて授業をすすめました。楽器の解  
説には実物の「笙」・「簫篋」・「龍笛」  
や学校所有の「鞨鼓」・「樂太鼓」・「鉦」  
「鼓」を見せながら、音色も聴かせる  
などして、感じたことを記入させま  
した。

● 第三回 本格的な稽古

この授業では本格的に構え方や指  
運びに進んでいきました。ここから  
は授業というよりは「稽古」の様相  
になっています。少し厳しく指導  
してみましたが、それでもついてく  
る生徒が多数いましたので、全体の  
進行も順調であつたと思います。し  
かし、やはり夢中になりすぎ酸欠状  
態になる生徒もいましたので、こち  
らからブレーキをかけることもしば  
しばありました。

授業のはじめから楽譜に添つた稽  
古を行いました。クラスによつて多  
少の差異はあるものの、中には「君  
が代」の一節をきれいに吹いてしま  
う生徒もいたことに、びっくりさせ  
られました。

いずれにせよ、生徒たちが眼をキ  
ラキラさせながら夢中に笛を吹く光  
景は何とも美しいものです。近頃は  
様々なメディアで日本の将来が心配  
されていますが、懸命に笛を吹く彼  
らの顔を眺めていると、これから  
我が国は安泰だと確信しました。

御神縁によつてこの生徒たちと出  
会えたこと、雅楽を続けていてたか  
らこそいただけたこの幸福に感謝す  
るばかりです。(禰宜 柳野 等)

● 第四回 龍笛入門

いよいよ各生徒に龍笛が一管ずつ  
配布され、龍笛の実技指導にはいつ  
ていきます。

まずは、各生徒に龍笛の部分名称  
や指穴の名称を理解し内部の構造と  
音の発生する原理などを学習しても  
らいました。

いよいよ音を出す練習になると、  
生徒たちは待ちかねた様に吹き出し  
ました。龍笛は難しいのですぐには  
音を出せないだろうと予想していた  
のですが、なんと八割以上の生徒が  
音を出させていたのです。中にはなか

なか音にできない生徒もいましたが、  
折角の稽古ですから何かの曲を課  
題としたいと思い、「君が代」を練  
習することにしました。古典曲をす

るにはあまりにも時間がありません  
し、かといって、童謡などを吹かせ  
たのでは遊びの要素が多くなつてしま  
ります。そこで、神社神道の校風  
が、確かな手応えを感じることがで  
きました。

この休憩時間を使つて雅楽に関係  
する話題として、日常会話にある雅  
樂用語についてお話をしました。「た  
やら」・「千秋樂」・「コツ」など平素  
何気なく使つている言葉のなかには  
たくさんの雅樂用語があることやそ  
の意味を知つた生徒たちはとても興  
味深げで「そうなんやあ」を連発し  
ていました。

● 第五回 本格的な稽古

この授業では本格的に構え方や指  
運びに進んでいきました。ここから  
は授業というよりは「稽古」の様相  
になっています。少し厳しく指導  
してみましたが、それでもついてく  
る生徒が多数いましたので、全体の  
進行も順調であつたと思います。し  
かし、やはり夢中になりすぎ酸欠状  
態になる生徒もいましたので、こち  
らからブレーキをかけることもしば  
しばありました。

授業のはじめから楽譜に添つた稽  
古を行いました。クラスによつて多  
少の差異はあるものの、中には「君  
が代」の一節をきれいに吹いてしま  
う生徒もいたことに、びっくりさせ  
られました。

いずれにせよ、生徒たちが眼をキ  
ラキラさせながら夢中に笛を吹く光  
景は何とも美しいものです。近頃は  
様々なメディアで日本の将来が心配  
されていますが、懸命に笛を吹く彼  
らの顔を眺めていると、これから  
我が国は安泰だと確信しました。

● 第六回 龍笛入門

いよいよ各生徒に龍笛が一管ずつ  
配布され、龍笛の実技指導にはいつ  
ていきます。

まずは、各生徒に龍笛の部分名称  
や指穴の名称を理解し内部の構造と  
音の発生する原理などを学習しても  
らいました。

いよいよ音を出す練習になると、  
生徒たちは待ちかねた様に吹き出し  
ました。龍笛は難しいのですぐには  
音を出せないだろうと予想していた  
のですが、なんと八割以上の生徒が  
音を出させていたのです。中にはなか

なか音にできない生徒もいましたが、  
折角の稽古ですから何かの曲を課  
題としたいと思い、「君が代」を練  
習することにしました。古典曲をす

るにはあまりにも時間がありません  
し、かといって、童謡などを吹かせ  
たのでは遊びの要素が多くなつてしま  
ります。そこで、神社神道の校風  
が、確かな手応えを感じることがで  
きました。

この授業では本格的に構え方や指  
運びに進んでいきました。ここから  
は授業というよりは「稽古」の様相  
になっています。少し厳しく指導  
してみましたが、それでもついてく  
る生徒が多数いましたので、全体の  
進行も順調であつたと思います。し  
かし、やはり夢中になりすぎ酸欠状  
態になる生徒もいましたので、こち  
らからブレーキをかけることもしば  
しばありました。

授業のはじめから楽譜に添つた稽  
古を行いました。クラスによつて多  
少の差異はあるものの、中には「君  
が代」の一節をきれいに吹いてしま  
う生徒もいたことに、びっくりさせ  
られました。

いずれにせよ、生徒たちが眼をキ  
ラキラさせながら夢中に笛を吹く光  
景は何とも美しいものです。近頃は  
様々なメディアで日本の将来が心配  
されていますが、懸命に笛を吹く彼  
らの顔を眺めていると、これから  
我が国は安泰だと確信しました。

● 第七回 龍笛入門

いよいよ各生徒に龍笛が一管ずつ  
配布され、龍笛の実技指導にはいつ  
ていきます。

まずは、各生徒に龍笛の部分名称  
や指穴の名称を理解し内部の構造と  
音の発生する原理などを学習しても  
らいました。

いよいよ音を出す練習になると、  
生徒たちは待ちかねた様に吹き出し  
ました。龍笛は難しいのですぐには  
音を出せないだろうと予想していた  
のですが、なんと八割以上の生徒が  
音を出させていたのです。中にはなか

なか音にできない生徒もいましたが、  
折角の稽古ですから何かの曲を課  
題としたいと思い、「君が代」を練  
習することにしました。古典曲をす

るにはあまりにも時間がありません  
し、かといって、童謡などを吹かせ  
たのでは遊びの要素が多くなつてしま  
ります。そこで、神社神道の校風  
が、確かな手応えを感じることがで  
きました。

この授業では本格的に構え方や指  
運びに進んでいきました。ここから  
は授業というよりは「稽古」の様相  
になっています。少し厳しく指導  
してみましたが、それでもついてく  
る生徒が多数いましたので、全体の  
進行も順調であつたと思います。し  
かし、やはり夢中になりすぎ酸欠状  
態になる生徒もいましたので、こち  
らからブレーキをかけることもしば  
しばありました。

授業のはじめから楽譜に添つた稽  
古を行いました。クラスによつて多  
少の差異はあるものの、中には「君  
が代」の一節をきれいに吹いてしま  
う生徒もいたことに、びっくりさせ  
られました。

いずれにせよ、生徒たちが眼をキ  
ラキラさせながら夢中に笛を吹く光  
景は何とも美しいものです。近頃は  
様々なメディアで日本の将来が心配  
されていますが、懸命に笛を吹く彼  
らの顔を眺めていると、これから  
我が国は安泰だと確信しました。

● 第八回 龍笛入門

いよいよ各生徒に龍笛が一管ずつ  
配布され、龍笛の実技指導にはいつ  
ていきます。

まずは、各生徒に龍笛の部分名称  
や指穴の名称を理解し内部の構造と  
音の発生する原理などを学習しても  
らいました。

いよいよ音を出す練習になると、  
生徒たちは待ちかねた様に吹き出し  
ました。龍笛は難しいのですぐには  
音を出せないだろうと予想していた  
のですが、なんと八割以上の生徒が  
音を出させていたのです。中にはなか

なか音にできない生徒もいましたが、  
折角の稽古ですから何かの曲を課  
題としたいと思い、「君が代」を練  
習することにしました。古典曲をす

るにはあまりにも時間がありません  
し、かといって、童謡などを吹かせ  
たのでは遊びの要素が多くなつてしま  
ります。そこで、神社神道の校風  
が、確かな手応えを感じることがで  
きました。

この授業では本格的に構え方や指  
運びに進んでいきました。ここから  
は授業というよりは「稽古」の様相  
になっています。少し厳しく指導  
してみましたが、それでもついてく  
る生徒が多数いましたので、全体の  
進行も順調であつたと思います。し  
かし、やはり夢中になりすぎ酸欠状  
態になる生徒もいましたので、こち  
らからブレーキをかけることもしば  
しばありました。

授業のはじめから楽譜に添つた稽  
古を行いました。クラスによつて多  
少の差異はあるものの、中には「君  
が代」の一節をきれいに吹いてしま  
う生徒もいたことに、びっくりさせ  
られました。

いずれにせよ、生徒たちが眼をキ  
ラキラさせながら夢中に笛を吹く光  
景は何とも美しいものです。近頃は  
様々なメディアで日本の将来が心配  
されていますが、懸命に笛を吹く彼  
らの顔を眺めていると、これから  
我が国は安泰だと確信しました。

● 第九回 龍笛入門

いよいよ各生徒に龍笛が一管ずつ  
配布され、龍笛の実技指導にはいつ  
ていきます。

まずは、各生徒に龍笛の部分名称  
や指穴の名称を理解し内部の構造と  
音の発生する原理などを学習しても  
らいました。

いよいよ音を出す練習になると、  
生徒たちは待ちかねた様に吹き出し  
ました。龍笛は難しいのですぐには  
音を出せないだろうと予想していた  
のですが、なんと八割以上の生徒が  
音を出させていたのです。中にはなか

なか音にできない生徒もいましたが、  
折角の稽古ですから何かの曲を課  
題としたいと思い、「君が代」を練  
習することにしました。古典曲をす

るにはあまりにも時間がありません  
し、かといって、童謡などを吹かせ  
たのでは遊びの要素が多くなつてしま  
ります。そこで、神社神道の校風  
が、確かな手応えを感じることがで  
きました。

この授業では本格的に構え方や指  
運びに進んでいきました。ここから  
は授業というよりは「稽古」の様相  
になっています。少し厳しく指導  
してみましたが、それでもついてく  
る生徒が多数いましたので、全体の  
進行も順調であつたと思います。し  
かし、やはり夢中になりすぎ酸欠状  
態になる生徒もいましたので、こち  
らからブレーキをかけることもしば  
しばありました。

授業のはじめから楽譜に添つた稽  
古を行いました。クラスによつて多  
少の差異はあるものの、中には「君  
が代」の一節をきれいに吹いてしま  
う生徒もいたことに、びっくりさせ  
られました。

いずれにせよ、生徒たちが眼をキ  
ラキラさせながら夢中に笛を吹く光  
景は何とも美しいものです。近頃は  
様々なメディアで日本の将来が心配  
されていますが、懸命に笛を吹く彼  
らの顔を眺めていると、これから  
我が国は安泰だと確信しました。

● 第十回 龍笛入門

いよいよ各生徒に龍笛が一管ずつ  
配布され、龍笛の実技指導にはいつ  
ていきます。

まずは、各生徒に龍笛の部分名称  
や指穴の名称を理解し内部の構造と  
音の発生する原理などを学習しても  
らいました。

いよいよ音を出す練習になると、  
生徒たちは待ちかねた様に吹き出し  
ました。龍笛は難しいのですぐには  
音を出せないだろうと予想していた  
のですが、なんと八割以上の生徒が  
音を出させていたのです。中にはなか

なか音にできない生徒もいました

爽やかな秋風吹く一〇月一五日の午後、カートに揺られながら、いつもお客様たちがご来宮されました。

そのお客様たちは、境内の参拝者があつたのでしょうか、かぼちゃのお面や着ぐるみなど、可愛らしい仮装姿でご来宮くださいました。

境内に園児達の姿が見えると、神職や巫女、参拝者にいたる全ての人々の顔に笑みがこぼれます。お参りにお越しくださった方々皆が笑顔になる。そんな光景をこの先いつまでも見ていてほしいものです。

今日は、その小さな小さなお客様、「にじのとり保育園」(北区紅梅町)園児の皆

様を紹介いたします。  
月に二、三度、境内にお出かけ下さるこの園児たちは、われわれ神職や巫女にとって癒しであり、またアイドルのような存在なのです。

この日の当宮では「秋大祭・流鏑馬神事」がご斎行されましたので、その御料馬を見学をご来宮くださったそうです。  
当宮では、一年を通して様々な神事、催事がございますが、



## 編集後記

その折々に境内にお越し下さい。私たちの心を和ませてください。  
その数日後には、ハロウィンの催しがあつたのでしょうか、かぼちゃの装姿でご来宮くださいました。

平成十六年に始まった「てんま天神梅まつり」は今年で一〇年を、平成十九年復興の「天満天神えびす祭」は七年目を迎えました。

「梅まつり」は、回を重ねることにじのとり保育園の皆さん、近々またお参りください。カートに乗つて……。

当宮の「えびす祭」は、江戸時代には「御神酒えびす像」が評判をとり、今宮戎神社、堀川戎神社とともに「三えびす」と称されました。まだ往時の賑わいには及びませんが、「梅まつり」同様に皆様に認知される日が近いと信じております。

大阪天満宮社報

てんまてんじん 第63号

平成24年12月20日印刷

平成25年1月1日発行

発行人 寺井種伯

発行所 大阪天満宮社務所

印刷所 木村印刷株式会社

〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁1-8

Tel 06-6353-0025